国語科　６年

〈言葉の学習〉(『春のいぶき』)	４月（２時間…Ｂ２）
目標	春を感じたことについて，文章に書くことができる。
評価 規準	(①知　・　技)語句と語句との関係について理解し，語彙を豊かにするとともに，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使っている。((１）オ) (②思・判・表)「書くこと」において，目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，伝えたいことを明確にしている。(Ｂ（１）ア) (③主体的態度)積極的に季節を表す語彙を豊かにし，表現の意図に応じて言葉を吟味しながら，俳句を作ろうとしている。
○春を表す言葉とその意味を知り，自分が春を感じる場面や風物を想起する。 ○春を感じる場面や風物を取り上げ，自分が感じる春を俳句にまとめる。	
【備考】 ○第１時に，校庭に春探しに出かけ，タブレットで写真を撮り，それを第２時に俳句を作成する際に活用してもよい。	

単元	１　言葉の準備運動（『つないで，つないで，一つのお話』）	４月（１時間…Ａ１）
目標	言葉の働きを理解しながら，積極的に話のつながりを捉えて話したり聞いたりすることができる。	
言語活動	物語のつながりを考えて話したり，友達の話を聞いたりする活動。(ア)	
評価 規準	(①知　・　技)言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。((１）ア) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において，自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，自分の考えをまとめている。(A(1)エ) (③主体的態度)積極的に話のつながりを捉えながら友達の話を聞き，自分の考えをまとめて話すことに関わる課題の解決に向けて，お話づくりをしようとしている。	
○一人一文ずつ交代でお話を作りながら，グループで一つのお話を作る。		
【備考】 ○グループは５～６人がよい（おはよう活動の旗グループ等)。		

単元	２　詩を楽しもう（『春の河』『小景異情』）	４月（１時間…Ｃ１）
目標	これまでに身に付けてきた音読の技能を生かしたり，詩の全体像を想像したりしながら，積極的に音読することができる。	
言語活動	詩『春の河』『小景異情』を音読し，想像した情景を伝え合う活動。(イ)	
評価 規準	(①知　・　技)これまでに身に付けてきた音読の技能を生かして，詩を音読している。((１）ケ) (②思・判・表)「読むこと」において，詩の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。(Ｃ（１）エ) (③主体的態度)積極的に詩の全体像を具体的に想像し，詩の楽しみ方に関わる課題の解決に向けて，友達と楽しんで音読しようとしている。	
○想像した情景を聞き合いながら，『春の河』と『小景異情』を繰り返し音読する。		
【備考】 ○国語の学習用語「情景」の再確認をする。 ○これまでに身に付けてきた音読の技能として，「声の大きさ」「抑揚」「速さ」「間の取り方」等が挙げられる。		

国語科　６年

単元	３　感想をまとめよう（『帰り道』）			４月（６時間…Ｃ６）
目標	物語『帰り道』を読み，想像することと音読することを繰り返し，登場人物の心情や相互関係を表した叙述を基に，感想をまとめることができる。			
言語活動	物語『帰り道』を読み，想像した人物像や物語の全体像を聞き合う活動。（イ）			
評価規準	(①知　・　技)想像したことや感じたことが聞き手に伝わるように音読している。((１）ケ) (②思・判・表)「読むこと」において，行動や会話から登場人物の心情や相互関係を捉えている。(Ｃ（１）イ) 「読むこと」において，人物像や物語の全体像を具体的に想像している。(Ｃ（１）エ) (③主体的態度)積極的に友達と物語を読み，視点の違いから登場人物の心情や相互関係を捉えることに関わる課題の解決に向けて，感想をまとめようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○教師の範読を基に，物語の設定を捉えたり，教材文の感想を聞き合ったりし，学習課題をつかむ。 学習課題 二人の視点に着目し，感想をまとめよう	○視点が変化することの効果に着目して物語の内容を捉えることができるよう，感想を聞き合う際，「１」の場面 と「２」の場面の共通点・相違点という観点を提示する。	◇教材文についての自分の感想を発言したり，記述したりしている。　＜発言・ノート③＞
ふかめる	２	○それぞれの場面を読み，律と周也のそれぞれの立場から二人の関係を捉え，感想を書く。	○登場人物の行動や会話の解釈を聞き合いながら登場人物の相互関係を捉えることができるよう，ペアで書き込む本文シートや二つのペアが向き合った机の配置を用意する。	◇具体的な行動や会話の叙述を基に，律や周也の人物像，互いへの思い等に関する自分の感想を発言したり，記述したりしている。＜発言・ノート①②③＞
	１	○「２」の場面を「１」の場面と行き来しながら読み，周也の立場から二人の関係を捉え，感想を書く。	○登場人物の心情の変化や視点の変化に触れた感想を書きまとめることができるよう，感想を書く際，「自分の経験に重ねて」「視点の変化による物語への効果」という視点を提示する。	**◇具体的な行動や会話，情景描写を基に，律や周也の心情，互いへの思い等の変化について，自分の感想を発言したり，記述したりしている。** **＜発言・ノート①②③＞**
ふりかえる	１	○書き溜めた感想文を基に，物語全体から感じたことや読んで考えたことについて聞き合い，単元の学習を振り返る。	○物語を通した登場人物の変化を中心に聞き合うことができるよう，「登場人物の心情の変化」「二人の関係の変化」「視点の変化」の観点ごとに，感じたことを話す場を設定する。	◇物語全体から感じたことや読んで考えたことについて自分の感想を発言したり，記述したりしている。 ＜発言・ノート③＞
	１	○まとめテストを行う。		**◇６割以上の問題について，正答を出している。** **＜テスト②＞**
【備考】 ○国語の学習用語「視点」を理解し，用いることができるようにする。 ○「ふかめる」過程における感想を，Google ドキュメント等の文書作成ソフトに書き留めておくようにすると，「ふりかえる」過程において聞き合う時間を確保することにつながる。				

国語科　６年

〈言葉の学習〉(『漢字の形と音・意味』)	４月（２時間…知・技２）
目標	漢字の由来，特質についての理解を深めることができる。
評価 規準	(①知　・　技)第６学年までに配当されている漢字を読むとともに，漸次書き，文や文章の中で使っている。((１）エ) 漢字の由来，特質などについて理解している。((３）ウ) (③主体的態度)積極的に漢字の由来，特質についての理解を深め，今までの学習を生かして，漢字を文や文章の中で使おうとしている。
○共通する部分をもつ漢字は，形だけでなく音も共通する場合があることを理解し，共通した形と音をもつ漢字を集める。 ○共通する部分をもつ漢字は，意味の上でつながりがある場合があることを理解し，意味のつながりがある共通した部分をもつ漢字を集める。	

〈言葉の学習〉(『漢字の広場①』)	５月（１時間…Ｂ１）
目標	学習した漢字を使い，絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。
評価 規準	(①知　・　技)第５学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使っている。((１）エ) (②思・判・表)「書くこと」において，書き表し方に着目して，文を整えている。(Ｂ（１）オ) (③主体的態度)積極的に第５学年までに学習した漢字を確かめ，今までの学習を生かして，漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
○５年生で習った漢字を用い，町で起こっている出来事を一文で書く。	

国語科　６年

単元	４　友達と話を聞き合おう（『聞いて，考えを深めよう』）			５月（６時間…Ａ６）
目標	目的や話題に沿って話す言葉の中に，意見とそれを支える根拠を見出し，自分の考えと比べながら，友達と話を聞き合うことができる。			
言語活動	意見とそれを支える根拠を話したり，それらを聞いたりする活動。（ア）			
評価規準	(①知　・　技)話の中に含まれる話し手の意見とそれを支える根拠の関係を理解し，理由を話すときに使う言葉に注意しながら，互いの話を聞き合っている。（(２）イ） (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において，友達の話の中に含まれる話し手の意見とそれを支える根拠を区別して聞き，自分の話の構成を考えている。(Ａ（１）イ） (③主体的態度)積極的に互いの意見とそれを支える根拠を捉え，話の構成に関わる課題の解決に向けて，友達と話を聞き合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○話の聞き方に関する既習事項を確認したり，教師のよい話し方のモデルを聞いたりして，学習課題をつかむ。 学習課題 話し手の意見と根拠の関係を聞き，自分の考えをまとめたり深めたりしよう	○意見とそれを支える根拠の関係に課題意識をもつことができるよう，意見の後に根拠を述べる話し方や根拠を簡潔にまとめて意見を述べる話し方等，教師がよい話し方のモデルを提示する。	**◇既習事項やモデルから気付いたよい話の聞き方を発言したり，意見を支える根拠の述べられ方に触れた，話を聞くときに大切なことを記述したりしている。　＜発言・ノート①＞**
ふかめる	１	○話題を決め，自分の考えをまとめる。	○自分の考えについて，意見とそれを支える根拠をそれぞれ分けてまとめることができるよう，意見や根拠を書き分けるワークシートや根拠となりうる情報（図書資料等）を用意する。	◇初めに要点を述べ，それから具体例やデータ等を示す話型で，自分の考えをまとめている。 ＜ワークシート①＞
	１	○自分の考えに関わって聞きたいことを，次時に聞き合いをするグループ以外の友達に尋ねる。	○自分の考えを深めるという目的を明確にもつことができるよう，立場や意見が異なる友達の話を聞く場を設定する。	**◇立場や意見が異なる友達の話を聞き，自分の考えを見直したり，修正を加えたりしている。 ＜ワークシート②＞**
	１	○話題についての各自の意見やそれを支える根拠を，グループで聞き合いをする。	○意見とそれを支える根拠を聞き分けることができるよう，判定カードを用意する。	**◇意見やそれを支える根拠の分かりやすさを話し手に伝えたり，判定カードに書き込んだりしている。　＜発言・判定カード③＞**
	１	○聞き合った互いの意見やそれを支える根拠を基に，自分の考えをまとめ直す。	○グループの友達の考えと自分の考えとを比べて話を考え直すことができるよう，「多くの意見に共通すること」「自分の考えに取り入れられそうなこと」の視点を提示する。	◇友達の考えを基に，自分の最終的な考えを記述している。　＜ノート②＞
かふえりる	１	○最初の自分の考えと最終的な自分の考えとを比較し，単元の学習を振り返る。	○自分の考えが深まったことを実感できるよう，ワークシートにまとめた最初の自分の考えと，ノートにまとめた自分の考えを比較する際，「友達の話を聞くよさ」「できるようになったこと」の観点を提示する。	◇自分の考えを深めるために，友達の話を聞くよさに触れて発言したり，記述したりしている。　＜発言・学習振り返りシート③＞

【備考】
○話題例　住むなら東京か群馬か
　　中学生にスマホは必要か不要か
　　学校以外で学習するなら塾か通信教育か

国語科　６年

単元	５　主張って？事例って？（『笑うから楽しい』『時計の時間と心の時間』『主張と事例』）			５月（７時間…Ｃ７）
目標	筆者の主張と事例との関係を押さえて読み，筆者の主張に対する自分の考えをもつことができる。			
言語活動	説明的な文章を読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。（ア）			
評価規準	(①知　・　技)文章全体を「双括型」の構成として捉え，主張と事例の関係を理解している。（（２）ア） (②思・判・表)「読むこと」において，筆者の主張と４つの事例との関係を叙述を基に押さえ，要旨を把握している。（Ｃ（１）ア） (③主体的態度)積極的に筆者の主張と事例の関係を捉えて読み，文章全体の構成に関わる課題の解決に向けて，感想をまとめようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○説明的文章における既習事項と比べながら，『笑うから楽しい』を読み，学習課題をつかむ。 学習課題 主張と事例との関係に気を付けて文章を読み，自分の考えをまとめよう	○多様な既習事項を想起することができるよう，「内容面」「表現面」という観点を提示する。	**◇既習事項と文章とを比較したことについて発言したり，記述したりしている。　＜発言・ノート③＞**
ふかめる	１	○『笑うから楽しい』を読み，双括型の文章構成を捉えて，要旨を捉える。	○それぞれの段落を，主張が書かれたものと事例が書かれたものとに分けることができるよう，段落ごとに中心文を見つけたり要約したりする活動を設定する。	**◇内容の中心となる事柄や筆者の考えの中心となる事柄を短くまとめている。　＜ノート②＞**
	１	○『時計の時間と心の時間』を読み，要旨を捉える。	○『時計の時間と心の時間』の文章構成を捉えることができるよう，『笑うから楽しい』と比較する活動を設定する。	◇「初め」と「終わり」の段落の内容を過不足なくまとめている。　＜発言・ノート②＞
	２	○『時計の時間と心の時間』の事例の段落の要点を捉える。	○要点のまとめ方について考えることができるよう，段落ごとに要点例を比較する活動を設定する。	**◇複数の要点例からよりよい例を選択し，根拠を発言したり，記述したりしている。＜発言・ノート①＞**
ふりかえる	１	○筆者の主張に対する自分の考えを意見文としてまとめ，単元の学習を振り返る。	○筆者の主張に対する自分の立場を明らかにすることができるよう，単元を通して用いてきた「納得度」という指標を用いて書く活動を設定する。	◇筆者の主張に対する自分の考えを「初め」と「終わり」に書き，その根拠となる自分の体験を「中」に書いている。　＜意見文②＞
	１	○まとめテストを行う。		**◇６割以上の問題について，正答を出している。　＜テスト②＞**

【備考】
○国語の学習用語「主張」「事例」を理解し，用いることができるようにする。
○時間に関わる文章として，図書室の蔵書を利用するとよい。
（『時計の大研究』池内了，『元気な脳が君たちの未来をひらく』川島隆太，『絵とき　ゾウの時間とネズミの時間』　本川達雄など）

国語科　６年

〈言葉の学習〉(『話し言葉と書き言葉』)	５月（１時間…知・技１）
目標	話し言葉と書き言葉との違いを理解することができる。
評価 規準	(①知　・　技)話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。((１) イ) (③主体的態度)積極的に話し言葉と書き言葉との違いについての理解を深め，場面や相手に応じて適切な表現をしようとしている。
○話し言葉と書き言葉の違いについて整理し，同じ内容を話し言葉と書き言葉の違いに気を付けて表現する。 ○相手や場面による表現の違いについて整理し，同じ内容を相手や場面の違いに気を付けて表現する。	

単元	６　短歌に親しむ（『たのしみは』）	６月（３時間…Ｂ３）
目標	表現の工夫を使いながら，思いを短歌に表すことができる。	
言語活動	感じたことを短歌にして表す活動。(イ)	
評価 規準	(①知　・　技)短歌に用いられている体言止めや比喩等の表現の工夫に気付いている。((１) ク) (②思・判・表)「書くこと」において，五・七・五・七・七の俳句の形式や表現技法の用い方に着目して，自分の作った短歌を整えている。(Ｂ(１) オ) (③主体的態度)積極的に短歌を繰り返し音読したり，思いを想像したりしながら，短歌の書き表し方に関わる課題の解決に向けて，短歌を作ろうとしている。	

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○自分の楽しみにしていることを伝え合ったり，短歌を音読して形式を確かめたりして，学習課題をつかむ。 学習課題例：思いを短歌に表そう。	○短歌の形式や作者の思いを捉えることができるよう，繰り返し音読したり，表された思いや用いられている表現技法を話し合ったりする活動を設定する。	◇短歌に表された思いを想像したり，用いられている表現技法を指摘したりしながら,繰り返し音読している。 ＜音読・発言・ノート③＞
ふかめる	１	○「楽しみ」をテーマに短歌を作る。	○形式に合わせながら，表現を工夫した短歌を作ることができるよう,「楽しみは」で始まる短冊を用意し，作成する際の工夫点として,「体言止めや比喩などの表現技法」「色彩表現のよさ」を提示する。	**◇五・七・五・七・七の形式に気を付けながら，表現を工夫して,「楽しみ」をテーマに短歌を作っている。 ＜短冊①②③＞**
ふりかえる	１	○作った短歌を伝え合い，単元の学習を振り返る。	○表現の仕方に着目して短歌を味わうことができるよう，短歌を評価する観点として,「使われている言葉のよさ」「体言止めや比喩などの表現技法のよさ」「色彩表現のよさ」を提示し，互いの短歌を評価する活動を設定する。	◇表現の仕方に着目して，感想やよりよい表現について発言したり，記述したりしている。 ＜発言・ノート①＞

【備考】
○短冊に俳句を書く際は，筆ペンを使って，書写の学習との関連を図るとよい。
○土屋文明記念文学館の事業「小学生の短歌教室」を利用してもよい。

国語科　６年

〈言葉の学習〉(『文の組み立て』)	６月（２時間…知・技２）
目標	文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。
評価規準	(①知　・　技)文の中での語句の係り方や語順について理解している。((１) カ) (③主体的態度)積極的に語句の係り方や語順についての理解を深め，表現の意図に応じて分かりやすく文を組み立てていこうとしている。
○文節カードを並べ替え，日本語の文の語順の決まりを理解し，述語を文末から見つけたり，主語と述語の関係を考えたりする。	
○１学期の言葉のテストをする。	

単元	７　提案するために必要なこと（『情報と情報をつなげて伝えるとき』『私たちにできること』）	６・７月（１２時間…Ｂ１２）
目標	具体的な読み手を決め，自分たちの身近な環境を改善するために，文章全体の構成を考えながら，提案書を書くことができる。	
言語活動	自分たちの身近な環境を改善するために提案する文章を書く活動。(ア)	
評価規準	(①知　・　技)収集した情報や自分の考えについて，具体の関係，説明の関係，複数の共通関係等，情報と情報の関係を理解し，適切に書き表している。((２) イ) (②思・判・表)「書くこと」において，筋道の通った文章となるように，提案のきっかけや具体的な提案内容等の順序を考えている。(Ｂ（１）イ) 「書くこと」において，読み手や目的に応じて，簡単に書いたり詳しく書いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Ｂ（１）ウ) (③主体的態度)積極的に情報と情報の関係付けの仕方を理解し，文章全体の構成に関わる課題の解決に向けて，提案書を書こうとしている。	

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○環境問題に関する新聞記事等や普段の学校の様子から問題を見出したり，提案書のモデルのよさや特徴を話し合ったりして，学習課題をつかむ。 学習課題 具体的な事実や考えを基に，「６年○組環境改善提案書」を作ろう	○自分たちの身近な環境を改善することに関心をもつことができるよう，児童の実態に応じて，節水・節電・ゴミ問題等，環境に関する提案書のモデルを用意する。	◇環境に関する問題意識を発言したり，提案書のモデルから分かることや提案書を書くことに意欲的な感想を記述したりしている。 ＜発言・ノート③＞
ふかめる	１	○学習計画を立て，テーマを設定したり，テーマに沿った資料（図書資料等）を収集したりする。	○自分の興味関心に合わせてテーマ設定ができるよう，「エネルギー問題」「水問題」「ゴミ問題」「食料問題」等，いくつかのブースや書籍コーナーを用意する。	◇全校児童または学級の友達を読み手とした環境改善を提案するテーマを見つけ，必要な情報を収集している。 ＜学習プリント③＞
	１	○収集した情報や自分の考えを分類し，提案のきっかけや具体的な提案内容を同じテーマの友達と話し合う。	○提案書の構成を考える手がかりを得ることができるよう，「きっかけとなった経験」「現状や問題点」「解決方法」「提案の効果」の分類の観点を提示する。	◇付箋紙に記述した情報や考えを学習プリント上に分類してまとめている。 ＜学習プリント・付箋紙①＞
	２	○『情報と情報をつなげて伝えるとき』を読み，収集した情報や自分の考えのつなぎ方や書き表し方を考える。	○収集した情報や自分の考えを適切に書き表すことができるよう，「具体の関係」「説明の関係」「複数の共通関係」の視点を提示する。	◇収集した情報や自分の考えについて，その関係性を整理し，適切な言葉を使って書いている。 ＜学習プリント①＞
	３	○提案書の紙面の割り振りを決め，同じテーマの友達と分担して，下書きをする。	○提案書の構成を明確にすることができるよう，担当者の名前入りの組み立てメモを用意する。	◇「提案のきっかけ」「具体的な提案内容」に分かれ，自分たちの身近な環境を改善するための文章を書いている。 ＜提案書②＞
	１	○互いに書いた下書きを組み合わせ，推敲する。	○読み手を意識した書き表し方の工夫ができるよう，推敲の観点を「段落の作り方」「見出しの利用」「箇条書きの利用」を提示する。	◇「段落の作り方」「見出しの利用」「箇条書きの利用」の観点で提案書を見直したり，書き直したりしている。 ＜行動・提案書②＞

	2	○推敲したことを基に，提案書の清書をする。	○収集した情報や自分の考えが適切に結び付いていることを確かめながら書き上げることができるよう，「具体の関係」「説明の関係」「複数の共通関係」の視点を再提示する。	**◇収集した情報や自分の考えについて，その関係性を確かめながら，適切な言葉を使って書いている。** **＜提案書①②③＞**
かふえりる	1	○完成した提案書を読み合い，単元の学習を振り返る。	○文章全体の構成に着目しながら，互いの提案書を評価できるよう，「読み手に分かりやすい書き方」「説得力のある書き方」の視点を提示する。	◇文章全体の構成を考えながら書くよさや収集した情報や自分の考えの結び付け方に触れて発言したり，記述したりしている。 ＜発言・学習振り返りシート③＞

【備考】
○「ふかめる」第１時は，図書室を利用する。また，家庭でもインターネットや新聞記事等で情報を収集するとよい。

〈言葉の学習〉(『夏のさかり』)	７月（２時間…Ｂ２）
目標	夏を感じたことについて，文章に書くことができる。
評価規準	(①知　・　技)語句と語句との関係について理解し，語彙を豊かにするとともに，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使っている。((１）オ) (②思・判・表)「書くこと」において，目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，伝えたいことを明確にしている。(Ｂ（１）ア) (③主体的態度)積極的に季節を表す語彙を豊かにし，表現の意図に応じて言葉を吟味しながら，暑中見舞いはがきを書こうとしている。
○身近で感じた「夏」を出し合い，二十四節気の解説文や夏の俳句，短歌を音読する。 ○夏を感じる場面や風物を取り上げながら，暑中見舞いはがきを書く。	

〈言葉の学習〉(『漢字の広場②』)	７月（１時間…Ｂ１）
目標	学習した漢字を使い，絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。
評価規準	(①知　・　技)第５学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使っている。((１）エ) (②思・判・表)「書くこと」において，書き表し方に着目して，文を整えている。(Ｂ（１）オ) (③主体的態度)積極的に第５学年までに学習した漢字を確かめ，今までの学習を生かして，漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
○５年生で習った漢字を使い，遊園地での人々の行動を一文で書く。	

国語科　６年

単元	８　本は友達（『地域の施設を活用しよう』『私と本』『森へ』）			７月（６時間…Ｃ５知・技Ｉ）
目標	本を読んで印象に残ったことや考えたこと等を読書感想文として書きながら，自分の考えを広げたりまとめたりすることができる。			
言語活動	物語『森へ』を読み，考えたこと等を伝え合う活動。（イ） 学校図書館等を利用し，複数の本を読んで考えたことを報告する活動。（ウ）			
評価規準	(①知　・　技)日常的に読書に親しみ，読書が，自分の生活や考えを広げることに役立つことに気付いている。((３）オ) (②思・判・表)「読むこと」において，本を読んで印象に残った叙述を引用したり，考えたことやその理由を整理したりしながら，自分の考えを書きまとめている。(C（Ｉ）オ) 「読むこと」において，読書体験から生まれる意見や感想を共有し，自分の考えを広げている。(C（Ｉ）カ) (③主体的態度)積極的に読書の役割についての理解を深め，読書体験を基にした交流に関わる課題の解決に向けて，自分の考えをまとめたり伝えたりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	Ｉ	○自分と本との関わりを振り返ったり，これまで読んだ本の感想を伝え合ったりして，学習課題をつかむ。 学習課題 自分と関わらせながら本を読み，感想を交流しよう	○互いの読んだ本に興味をもつことができるよう，これまで読んだ本を紹介しながら，感想を伝え合う活動を設定する。	◇これまで読んだ本について，自分の感想を発言したり記述したりしている。　＜発言・ノート③＞
ふかめる	Ｉ	○『森へ』を読み，考えたことや印象に残った叙述などを整理してメモにまとめる。	○文章を読んで考えたこと等を整理することができるよう，「印象に残った叙述」「自分の経験等との関わり」「考えたこと」「あらすじ」等の項目を示したメモを用意する。	◇優れた叙述を見つけ，メモに書き出している。　＜ノート②＞
	Ｉ	○『森へ』を読んで書いたメモを伝え合う。	○伝え合ったことを基に，考えを深めたり広げたりすることができるよう，伝え合ったことから共通点や相違点をまとめる活動を設定する。	◇同じ文章を読んだ友達と伝え合ったことから，共通点や相違点をまとめている。　＜ノート②＞
	Ｉ	○これまで読んだ本や，興味をもった本について，考えたことや印象に残った叙述などを整理してメモにまとめる。	○本を読んで考えたこと等を整理することができるよう，「印象に残った叙述」「自分の経験等との関わり」「考えたこと」「あらすじ」等の項目を示したメモを用意する。	**◇項目に沿ってメモをまとめている。** **＜ノート①②③＞**
ふりかえる	Ｉ	○これまで読んだ本や，興味をもった本を読んで書いたメモを伝え合ったり，これからの自分の読書について考えたりして，単元の学習を振り返る。	○自分と本とを関わらせて感想をもつことの面白さに気付くことができるよう，伝え合って捉えた共通点や相違点を伝え合う活動を設定する。	◇異なる本を読んだ友達と伝え合ったことから，共通点や相違点をまとめ，自分と本との関わりにふれて，これからの読書に対する前向きな取組について記述している。　＜発言・ノート①＞
	Ｉ	○『地域の施設を活用しよう』を読み，地域にある施設を出し合う。	○夏休み中に利用できる地域の施設に関心をもつことができるよう，「県立図書館」「市立図書館」「土屋文明記念文学館」等の資料を提示する。	◇地域にある施設の利用経験やこれから目的に応じて利用する意欲を発言している。　＜発言③＞

【備考】
○『森へ』は音読の宿題として事前に読んでおけるようにするとよい。
○夏休みの読書感想文と関連させるとよい。

国語科　６年

単元	９　詩を味わおう（『せんねん　まんねん』）	８月（１時間…Ｃ１）
目標	比喩や反復等の表現の工夫による効果を考えながら，詩を読み味わうことができる。	
言語活動	詩『せんねん　まんねん』を読み，考えたことを伝え合う活動。（イ）	
評価規準	(①知　・　技)詩に用いられている比喩や反復等の表現の工夫に気付いている。((１）ク) (②思・判・表)「読むこと」において，詩の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。(C（１）エ) (③主体的態度)積極的に詩の表現の工夫とその効果を考え，今までの学習を生かして，友達と想像したことや考えたことを伝え合おうとしている。	
○反復表現に気を付けながら，自分の感じたことが伝わるように音読する。		
【備考】 ○国語の学習用語「比喩」「擬人法」「反復法」を理解し，用いられている表現技法に気付けるようにする。		

単元	１０　大事なものを聞き合おう（『いちばん大事なもの』）	９月（１時間…Ａ２）
目標	互いの意図や立場を明確にして話し合いながら，自分の大事なものについての考えを広げたりまとめたりすることができる。	
言語活動	それぞれの立場から大事なものについての考えを伝え合う活動。（ウ）	
評価規準	(①知　・　技)思考に関わる語句の量を増し，話の中で使っている。((１）オ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において，互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりしている。(A（１）オ) (③主体的態度)積極的に自分の考えを広げたりまとめたりしながら，話し合うことに関する課題の解決に向けて，考えたことを伝え合おうとしている。	
○教科書を基に学習の流れをつかみ，２学期からの学校生活の中で，自分が大切にしたいもの（物やこと等）を探し，ノートに箇条書きで挙げていく。 ○三人一組になり，ノートに書いたことを基に，互いの大切なものを聞き合い，聞き合ったことを振り返ってノートにまとめる。		

〈言葉の学習〉(『熟語の成り立ち』)		９月（２時間…知・技２）
目標	学習した漢字を使い，絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。	
評価規準	(①知　・　技)第６学年までに配当されている漢字を読むとともに，漸次書き，文や文章の中で使っている。((１）エ) 語句の構成や変化について理解している。((１）オ) (③主体的態度)積極的に熟語も構成についての理解を深め，熟語を調べたり書いたりしようとしている。	
○漢字二字・三字の熟語の成り立ちを理解し，身の回りの熟語から，それぞれの成り立ちにあてはまるものを探す。 ○漢字四字以上の熟語の成り立ちを理解し，身の回りから漢字四字以上の熟語を探す。		
【備考】 ○二字熟語カードが国語科準備室に保管してあるので，熟語の分類ゲームをしながら，成り立ちの理解を深める指導として活用するとよい。		

国語科　６年

単元	１１　書き方の工夫を読み取ろう（「『鳥獣戯画』を読む」）	９月（５時間…Ｃ５）
目標	相手を説得する文章の書き方の工夫に着目して，筆者の『鳥獣戯画』に対する見方や論の進め方を読み取ることができる。	
言語活動	国宝『鳥獣戯画』を解説する文章を読み，分かったことや考えたことを話し合う活動。（ア）	
評価規準	(①知　・　技)文の書き出しや語順，文と文との接続の関係，尾括型を基にした論の進め方とそれらのよさを理解している。((１）カ) (②思・判・表)「読むこと」において，相手を説得する文章の書き方の工夫を知るために，文章を読み，筆者の論の進め方をとそのよさを考えている。(Ｃ（１）ウ) (③主体的態度)積極的に相手を説得する文章の書き方の工夫を友達と伝え合い，文章全体の構成に関わる課題の解決に向けて，文章を読もうとしている。	

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○これまでの説明的文章の書き方を振り返ったり，「『鳥獣戯画』を読む」を読んだりして，学習課題をつかむ。 学習課題例 納得できる文章の書き方の工夫を探し，新しい書き方を手に入れよう	○自分の考えを納得してもらう文章の書き方を読み取る必要性を感じることができるよう，これまでの説明的文章の書き方と「『鳥獣戯画』を読む」との共通点や相違点を話し合う場を設定する。	**◇「『鳥獣戯画』を読む」の文章の書き方について気付いたことや疑問に思ったことを発言したり記述したりしている。＜発言・ノート③＞**
ふかめる	１	○文章全体の構成に着目し，筆者が用いている文章の書き方のよさについて話し合う。	○筆者の主張が書かれた段落に気付くことができるよう，これまでに学習した「頭括型」「双括型」「尾括型」の文章モデルを提示する。	**◇筆者の主張が文章の終わりに書かれている尾括型の文章であることを指摘している。＜発言・学習プリント①＞**
	１	○図の用い方に着目し，筆者が用いている文章の書き方のよさについて話し合う。	○筆者が説明している「漫画」や「アニメ」と『鳥獣戯画』との関連に気付くことができるよう，「漫画」や「アニメ」の特徴を話し合う場を設定する。	◇「漫画」や「アニメ」につながる表現を指摘し，「漫画」や「アニメ」につながる表現を用いることのよさについて発言したり記述したりしている。＜発言・学習プリント②＞
	１	○使用語彙に着目し，筆者が用いている文章の書き方のよさについて話し合う。	○呼びかけや勧誘等の具体的な表現の工夫に気付くことができるよう，これまでに学習した表現の工夫を一覧にした資料を提示する。	**◇呼びかけや勧誘の言葉を多用して読み手を引きつけながら論を進めることのよさを発言したり記述したりしている。＜発言・学習プリント②＞**
ふりかえる	(１)	○筆者の『鳥獣戯画』に対する見方と文章の書き方の工夫とを関わらせながら，今後の自分の文章表現について見通しをもつ。	○筆者の『鳥獣戯画』に対する見方と文章の書き方の工夫とを関わらせた考えがもてるよう，筆者の主張への納得度とその理由を，友達と伝え合う場を設定する。	◇文章の書き方の工夫を，筆者の『鳥獣戯画』に対する見方に納得できる根拠と結び付け，筆者の論の進め方についての評価を記述している。＜ノート③＞
	１	○まとめテストを行う。		**◇６割以上の問題について，正答を出している。＜テスト②＞**

【備考】
○「ふりかえる」過程は，時数と次単元との関連性から，「１２　読んだことを生かして書こう」の「つかむ」過程と兼ねた扱いにする。
○国語科準備室に「鳥獣人物戯画」のレプリカがあるので，単元の５時間目に活用するとよい。
○Ｈ30～実習単元としている。

国語科　６年

単元	１２　読んだことを生かして書こう（『日本文化を発信しよう』『調べた情報の用い方』）			９・１０月（４時間…Ｂ４）
目標	パンフレットの記事の書き表し方を工夫し，日本文化の魅力を書いて伝えることができる。			
言語活動	日本文化の魅力を多くの人に推薦する文章を書く活動。（ア）			
評価規準	(①知　・　技)自分の意図が伝わるような，文や文章の構成を理解し，パンフレットの割り付けや記事の中で用いている。（(１) カ） (②思・判・表)「書くこと」において，事実と感想，意見の書き表し方を工夫しながら，パンフレットの記事を書いている。(Ｂ（１）ウ) (③主体的態度)積極的に読み手を意識しながら，構成を工夫して書き表すことに関わる課題の解決に向けて，自分が魅力を感じている日本文化のパンフレットを作ろうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○「『鳥獣戯画』を読む」で用いられていた文章の書き方を振り返ったり，パンフレットのモデルを読んだりして，学習課題をつかむ。 学習課題例 読み手が納得できるようなパンフレットを作り，日本文化の魅力を伝えよう	○説得力のある書き方について気付くことができるよう，パンフレットのモデルを「意見を含んだリード文」「事実と感想で色分けされた事例」等，割り付けごとに分解して提示する。	**◇説得力のある文章の書き方について，気付いたことを発言したり，記述したりしている。** **＜発言・ノート③＞**
ふかめる	１	○学習計画を立て，パンフレットで取り上げる日本文化を決める。	○自分が魅力を感じている日本文化を決めることができるよう，「和食」「和服」「和室」を中心とした衣食住に分かれた資料コーナーを用意する。	◇自分の伝えたい日本文化を決めている。 ＜学習プリント③＞
	１	○『調べた情報の用い方』を読みながら，パンフレットの下書きをする。	○調べた情報と自分の考えを適切に入れた記事を書くことができるよう，「意見を含んだリード文」「事実と感想で色分けされた事例」等に分解されたパンフレットのモデルを再提示する。	**◇事実と感想，意見とを区別しながら，下書きを書いている。** **＜学習プリント①②③＞**
	（２）	○パンフレットの清書をする。	○写真や図と記事とを組み合わせてパンフレットを作ることができるよう，記事の内容に合った資料や写真を用意する。	◇記事の内容を補足するための写真や図を入れて，パンフレットを作っている。　＜パンフレット②＞
ふかりえる	１	○互いのパンフレットの記事を読み合い，単元の学習を振り返る。	○事実と感想，意見の書き表し方に着目しながら，互いのパンフレットの記事を評価できるよう，「読み手に分かりやすい書き方」「説得力のある書き方」の視点を提示する。	◇自分が魅力を感じている日本文化が，読み手に伝わるように工夫する方法やよさに触れて発言したり，記述したりしている。 ＜発言・学習振り返りシート③＞

【備考】
○「ふかめる」過程における，清書をする２時間は，時数と書写の学習との関連性から，「５　目的に合った筆記具」で扱う。
○パンフレットは，学級でテーマを揃えて１冊（例「６年○組が紹介する日本の食文化」）作成してもよいし，テーマごとにグループで１冊作成してもよい。
○調べる時間を単元内で多く確保できないため，社会科の学習「今につながる室町文化」で調べた内容を活用したり，家庭で調べるよう促したりするとよい。

国語科　６年

単元	13　言葉の変化を楽しもう（『言葉の変化』『天地の文』）　　１０月（２時間…知・技２）
目標	時代や世代による言葉の違いを理解することができる。
評価 規準	(①知　・　技)近代以降の文語調の文章を音読し，言葉の響きやリズムに親しんでいる。((３）ア) 　　語句の由来等に関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。((３）ウ) (③主体的態度)積極的に時代や世代による言葉の違いについて理解を深め，変化した言葉について調べたり，近代以降の文語調の文章を繰り返し音読したりしようとしている。
○『言葉の変化』を読み，時代や世代による言葉の違いを理解し，昔と今で呼び方の異なる事物を探す。 ○言葉の変化の一例として歴史的仮名遣い（「ひ」→「い」）を理解し，『天地の文』の大意を捉えたり，繰り返し音読したりする。	

〈言葉の学習〉（『秋探し』）　　１０月（２時間…Ｂ２）	
目標	秋を感じたことについて，文章に書くことができる。
評価 規準	(①知　・　技)語句と語句との関係について理解し，語彙を豊かにするとともに，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使っている。((１）オ) (②思・判・表)「書くこと」において，目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，伝えたいことを明確にしている。(Ｂ（１）ア) (③主体的態度)積極的に季節を表す語彙を豊かにし，表現の意図に応じて言葉を吟味しながら，俳句を作ろうとしている。
○秋を表す言葉とその意味を知り，自分が秋を感じる場面や風物を想起する。 ○秋を感じる場面や風物を取り上げ，それを俳句にして友達と発表し合う。	

国語科　６年

単元	14　計画的に話し合うには（『みんなで楽しく過ごすために』『伝えにくいことを伝える』）			１０月（６時間…Ａ６）
目標	聞き手や条件を考慮しながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすることができる。			
言語活動	それぞれの立場から考えを出し，話し合う活動。（ウ）			
評価規準	(①知　・　技)自分が発する言葉には，聞き手とのつながりをつくる働きがあることを理解し，話し合いで意見を述べるときに言葉を選んで用いている。（(１）ア） (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において，条件を考慮しながら計画的に話し合い，議題や話し合い方についての自分の考えを広げたりまとめたりしている。（A（１）オ） (③主体的態度)言葉を通じて積極的に友達と関わり，話し合うことに関わる課題の解決に向けて，話し合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○これまでのおはよう活動の計画づくりの様子や上手くいった遊びや盛り上がらなかった遊びを聞き合い，学習課題をつかむ。 学習課題 １～５年生のみんなが楽しめる遊びができるように，計画的に話し合う方法を知ろう	○計画づくりの際の話し合い方に課題意識をもつことができるよう，「計画づくりの時の話し合い方」または「遊びの決め方」の視点を提示する。	◇これまでのおはよう活動の計画づくりについて，遊びの条件整理の有無や意見の出し方に触れて，発言したり，記述したりしている。 ＜発言・学習プリント③＞
ふかめる	１	○学習計画を立て，遊びの条件を考える。	○「参加者全員が楽しめる」という条件に照らした細分化された条件に気付くことができるよう，「くらげチャート」等具体的な考えを関係付ける思考ツールを用意する。	◇思考ツールを用いながら，「参加者全員が楽しめる」という条件を基に考えた遊びの条件を記述している。 ＜学習プリント②＞
	２	○司会と記録係の役割を決め，話し合いの進め方をグループで確認したり，遊びについての自分の考えをまとめたりする。	○グループの全員が議題や話し合い方についての自分の考えを広げたりまとめたりする機会を得ることができるよう，話し合いの進め方の一例として「一人ずつ意見を出し合う」を提示する。	**◇考えを広げたりまとめたりできる話し合いの進め方を発言したり，自分の考えを記述したりしている。 ＜発言・話し合いメモ①②③＞**
	１	○話し合いの進め方に沿って，グループで話し合いをする。	○話し合いの過程を共有しながら話し合うことができるよう，記録用紙を用意する。	◇主張の意図や理由・根拠を尋ねたり，共通点や相違点，問題点と改善点を明確にして話したりしている。 ＜発言・記録用紙②＞
かふえりる	１	○話し合いの結果や感想を学級全体で聞き合い，単元の学習を振り返る。	○聞き手や条件を考慮する方法に着目しながら，互いの話し合いを評価できるよう，「よりよい話し合いの仕方」の視点を提示する。	**◇話し合いの手順や条件整理の仕方について発言したり，記述したりしている。 ＜発言・学習振り返りシート③＞**

【備考】
○話し合いのグループは，おはよう活動の旗グループがよい。また，議題を変えて行ってもよい。

国語科　６年

〈言葉の学習〉(『漢字の広場③』)	１０月（１時間…Ｂ１）
目標	学習した漢字を使い，絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。
評価規準	(①知　・　技)第５学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表)「書くこと」において，書き表し方に着目して，文を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度)積極的に第５学年までに学習した漢字を確かめ，今までの学習を生かして，漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
○５年生で習った漢字を使い，教科書の絵を基に，ストーリーを考えて書く。	

単元	15　『やまなし』の世界を読み味わおう（『やまなし』『イーハトーヴの夢』『利用案内を読もう』）			１１月（１０時間…Ｃ１０）
目標	場面についての描写を捉え，物語の全体像を想像することができる。			
言語活動	物語『やまなし』を読み，想像したことを聞き合う活動。（イ）			
評価規準	(①知　・　技)比喩や反復表現に気付き，その効果を考えながら文章を読んでいる。((1)ク) (②思・判・表)「読むこと」において，場面設定や叙述を基に，物語の全体像について考えている。(C(1)エ) (③主体的態度)積極的に叙述を捉え，物語の全体像を具体的に想像することに関わる課題の解決に向けて，友達と想像を広げて読もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『やまなし』の試しの朗読を行ったり，感想を話し合ったりして，学習課題をつかむ。 学習課題例 『やまなし』の世界について想像を広げ，朗読で伝えよう	○想像を広げながら物語を読むという意欲を高めることができるよう，試しの朗読から伝わる物語の様子を話し合う活動を設定する。	**◇試しの朗読を基に，想像を広げて『やまなし』を読んでいこうという思いを記述している。** **＜ノート③＞**
ふかめる	1	○「五月」の場面を読み，場面の様子を絵に表す。	○谷川の中の情景を捉えることができるよう，本文の情景描写に線を引き，登場人物の位置や用いられている色彩について話し合う活動を設定する。	◇情景描写を基に,登場人物の位置や色彩を絵に表し，場面全体の印象を発言したり記述したりしている。 ＜絵・発言・ノート③＞
	1	○「五月」の場面を読み，魚やかわせみが象徴しているものを話し合う。	○かにの親子の様子や会話文を基に話し合うことができるよう，話合いの視点「かにの親子の心情」「魚やかわせみに対する考え方」を提示する。	◇魚やかわせみが象徴しているものを発言したり記述したりしている。　＜発言・ノート②＞
	1	○「十二月」の場面を読み，場面の様子を絵に表す。	○谷川の中の情景を捉えることができるよう，本文の情景描写に線を引き，登場人物の位置や用いられている色彩について話し合う活動を設定する。	◇情景描写を基に,登場人物の位置や色彩を絵に表し，場面全体の印象を発言したり記述したりしている。 ＜絵・発言・ノート③＞
	1	○「十二月」の場面を読み，やまなしが象徴しているものを話し合う。	○かにの親子の様子や会話文を基に話し合うことができるよう，話合いの視点「かにの親子の心情」「やまなしに対する考え方」を提示する。	◇やまなしが象徴しているものを発言したり記述したりしている。　＜発言・ノート②＞
	1	○「五月」と「十二月」の場面を対比し，題名が『やまなし』である理由を話し合う。	○二つの場面の共通点や相違点を捉えることができるよう，二つの場面の様子を描いた絵や，「魚やかわせみ」と「やまなし」が象徴するものを対比して提示する。	◇二つの場面の対比を基に，題名が『やなまし』である理由を発言したり記述したりしている。 ＜発言・ノート②＞

国語科　６年

	１	○『イーハトーヴの夢』を読み，宮沢賢治の生き方や考え方と『やまなし』との関わりについて話し合う。	○賢治の生き方や考え方と『やまなし』の全体像とを結び付けることができるよう，賢治の生き方や考え方が分かる叙述と自分の想像した『やまなし』の世界とのつながりを具体的に指摘して話し合う活動を設定する。	◇賢治の生き方や考え方と『やまなし』の全体像とを結び付けて自分の考えを書いている。＜ノート②＞
	１	○表現の特徴を生かしながら，朗読の練習をする。	○比喩や反復表現等の朗読を工夫できるよう，比喩や反復表現，擬態語や擬声語の読み方を話し合う活動を設定する。	**◇比喩や反復表現の効果について考え，工夫しながら朗読練習をしている。　＜ノート・朗読練習①＞**
ふりかえる	１	○朗読発表会を行う。	○想像した場面の様子と比較しながら朗読を聞くことができるよう，聞く際の視点「伝わってきた場面の様子」を提示し，感想を伝え合う活動を設定する。	**◇想像した場面の様子と比較して朗読の感想を発言したり記述したりしている。　＜発言・ノート②＞**
	１	○まとめテストを行う。		**◇６割以上の問題について，正答を出している。＜テスト②＞**

国語科　６年

単元	16　紀行文を書こう			１１月（２時間…Ｂ２）
目標	修学旅行の思い出を未来の自分のために書き残すという目的で，事実と感想を区別しながら紙幅に合わせて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。			
言語活動	修学旅行での体験や経験を基に，感じたり考えたりしたことを書く活動。（ウ）			
評価規準	(①知　・　技)事実と感想の関係付けの仕方を理解しながら文章を書いたり，文章にあった写真を選んだりしている。((2)イ) (②思・判・表)「書くこと」において，自分が読み返したときに思い出がよく伝わる文章になることを意識し，事実と感想の関係を捉えながら紀行文を書いている。(B(1)ウ) (③主体的態度)積極的に言葉を選びながら，思い出を書き残すことに関わる課題の解決に向けて，未来の自分が読み返したときに思い出がよく伝わるように書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○奥の細道等の作品の説明を聞いたり，紀行文のモデルを読んだりし，文章構成や書き方の工夫について話し合い，学習課題をつかむ。 学習課題例：読み返したときに修学旅行の思い出がよくわかる紀行文を書こう。	○旅行で訪れた場所やその特徴等の事実と訪れた時の自分の感想との関係付けの仕方に気付くことができるよう，紀行文のモデルの書き方について話し合う活動を設定する。	◇旅行の思い出を伝えるための言葉や構成の工夫について発言したり，記述したりしている。 ＜発言・プリント①＞
ふかめる	(1)	○紀行文を書く。	○文章に合った写真を用いながら紀行文で書く内容を考えることができるよう，修学旅行中に班ごとのカメラで撮影した写真を用意する。	**◇文章に合った写真を用いながら，紀行文を書いている。 ＜紀行文①②③＞**
ふりかえる	1	○紀行文を読み合い，単元の学習を振り返る。	○書いた紀行文のよさを伝え合うことができるよう，修学旅行のオリエンテーリングの班の友達と読み合うときの視点「読み返したときに自分の思い出がよく伝わる」という視点を提示する。	◇友達の紀行文について分かりやすい点や共感できる点等を伝えたり，友達の意見を基に自分の紀行文を書き直したりしている。　＜発言・紀行文③＞

【備考】
○つかむ過程で，附属中学校では３年の国語で京都・奈良の修学旅行を基にした紀行文を日本語や英語で書き表していることや，身近な俳句「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」の紹介などを行い，課題解決の必要感や意欲を高められるとよい。
○「ふかめる」過程の時数は，担任の時間を充て，必要に応じて増やすとよい。
○紀行文の用紙や書き方の例はカリ管内のデータにある。

国語科　６年

単元	17　伝統文化に親しもう（『古典芸能の世界』『柿山伏』『「柿山伏」について』）			１１月（５時間…Ｃ４・知・技１）
目標	作品を読んで感じたことが伝わるよう朗読したり，古典作品に描かれた物語の世界を具体的に想像したりしながら，伝統文化に親しむことができる。			
言語活動	古典作品を読み，内容を説明したり，想像したことを聞き合ったりする活動。（イ）			
評価規準	(①知　・　技)昔の人のものの見方・考え方を捉え，捉えたことを生かして朗読している。((1)ケ) (②思・判・表)「読むこと」において，狂言で表されている物語の世界や登場人物の人物像を具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度)積極的に狂言を楽しみ，古典作品を具体的に想像することに関わる課題の解決に向けて，昔の人のものの見方・考え方を理解しながら朗読しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○演じて伝える伝統文化の種類を知ったり，『柿山伏』の朗読を聞いて感想を伝え合ったりし，学習課題をつかむ。 学習課題例 山伏や柿主になりきったり，物語の世界を想像したりして，狂言を楽しく朗読しよう	○演じて伝える伝統文化の多様性に気付くことができるよう，『古典芸能の世界』や狂言『柿山伏』の読み聞かせをする。	◇登場人物のやりとりやせりふのリズムに触れながら，『柿山伏』の感想を発言したり，記述したりしている。　＜発言・ノート③＞
ふかめる	1	○『「柿山伏」について』を読み，狂言や『柿山伏』の面白さについて考える。	○舞台や演者の様子を確かめながら『柿山伏』を楽しむことができるよう，実際の『柿山伏』の映像を提示する。	**◇登場人物のやりとりや，文章のリズム等を挙げながら，狂言や『柿山伏』の面白さを発言したり，記述したりしている。　＜発言・ノート①＞**
	2	○『柿山伏』の朗読練習をする。	○登場人物の思いを想像することができるよう，「シテ：山伏」と「アド：柿主」のペアを２つ組み合わせたグループを編制する。	**◇登場人物の思いを想像しながら，繰り返し朗読している。　＜朗読②＞**
	1	○『柿山伏』の朗読を発表し合い，単元の学習を振り返る。	○ペアごとの朗読についての感想をもつことができるよう,自分たちの朗読との共通点や相違点をメモしながら朗読を聞き合う場を設定する。	**◇自分たちの朗読と比べながら，友達の朗読についての感想を記述している。　＜ノート③＞**

【備考】
○「つかむ」過程における『柿山伏』の読み聞かせは，教科書付属のＣＤを活用するとよい。
○「ふかめる」過程で提示する『柿山伏』の映像はインターネットを活用するとよい。
○能や歌舞伎の資料として，図書室の蔵書を利用するとよい。

国語科　６年

〈言葉の学習〉『仮名の由来』	１２月（２時間…知・技２）
目標	仮名の由来を知り，我が国の文字文化や伝統への理解と関心を深めることができる。
評価規準	(①知　・　技)仮名の由来，特質について理解している。((3)ウ) (③主体的態度)積極的に仮名の由来や特質に対する理解を深め，今までの学習を生かして，適切に文字を読んだり書いたりしようとしている。
○日本の文字言語の歴史や平仮名・片仮名の由来を知り，自分の名前や身の回りの言葉を万葉仮名を用いて書く。	
○２学期の言葉のテストをする。	

国語科　６年

単元	18　座右の銘を見つけてみよう（『大切にしたい言葉』）			１２月（６時間…Ｂ６）
目標	日常生活の中で感じたことや考えたことを表す言葉や文を見つけ，自分の経験を関係付けながら，伝えたいことが明確な文章を書くことができる。			
言語活動	自分の大切にしたい言葉に対する考えを書く活動。（ア）			
評価規準	(①知　・　技)効果的な文章構成の仕方を理解したり，目的に応じて適切に語句を用いたりしている。((1)オ) (②思・判・表)「書くこと」において，これからの生活の中で大切にしたい言葉が伝わるような自分の経験を用いて，文章を書いている。(B(1)ア) (③主体的態度)積極的に日常生活の中で感じたことや考えたことから話題を見付け，大切にしたい言葉を書き表すことに関わる課題の解決に向けて，文章を書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○教師の座右の銘を聞いたり，今までに出会ってきた言葉を聞き合ったりして，学習課題をつかむ。 学習課題例 日常生活の中にある言葉の中から，大切にしたい言葉を見つけ，座右の銘を書いて伝えよう	○自分の座右の銘について文章を書く活動について見通しをもつことができるよう，教師の座右の銘について，その理由が体験と結び付いた紹介文のモデルを提示する。	◇日常生活の中で感じたことや考えたことが表されている言葉や文を発言したり，記述したりしている。　＜発言・ノート③＞
ふかめる	1	○学習計画を立て，自分の座右の銘にしたい言葉を決める。	○日常生活の中で感じたことや考えたことの中から，自分の座右の銘になる言葉を見付ける手がかりを得ることができるよう，新聞や図書資料を用意する。	**◇文章に書き表したい自分の座右の銘を決めている。　＜ノート③＞**
	1	○文章の型を確認し，「中」の部分で書く自分の経験を詳しく考える。	○自分の座右の銘について，その理由を体験と結び付けて書き表すことができるよう，「頭括型」「双括型」「尾括型」の文章モデルを提示する。	◇「頭括型」「双括型」「尾括型」のいずれかの文章の型を選び，「中」の部分に自分の経験を書いている。　＜学習プリント②＞
	2	○自分の座右の銘について，文章を書く。	○自分の座右の銘とその理由が読み手に伝わる文章を書くことができるよう，文章を書いたり推敲したりする際の観点「体験と言葉の結び付き（自分の体験が座右の銘に合っているか)」を提示する。	**◇自分の座右の銘と自分の体験が結び付いている文章を書いている。　＜原稿用紙①②＞**
かふえりる	1	○互いの文章を読み合い，単元の学習を振り返る。	○文章の型に着目しながら，効果的な文章構成についての理解を深めることができるよう，「頭括型」「双括型」「尾括型」の文章モデルを再提示する。	◇効果的な文章構成の方法やよさに触れて発言したり，記述したりしている。　＜発言・学習振り返りシート①＞

【備考】
○分量については原稿用紙２枚程度とするが，分量にはこだわらず，自分の座右の銘とその理由の結び付く文章が書けるよう指導する。
○国語の学習用語「頭括型」「双括型」「尾括型」を理解し，用いることができるようにする。本単元では，「頭括型」の文章が題材としては書きやすいので，文章の型を「頭括型」で指定してもよい。

国語科　６年

〈言葉の学習〉『カンジー博士の漢字学習の秘伝』『漢字の広場④』）	１２月（３時間…Ｂ１・知・技２）
目標	学習した漢字を使い，絵を見て想像したことをもとに文章を書くことができる。
評価 規準	(①知　・　技)第５学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表)「書くこと」において，書き表し方に着目して，文や文章を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度)積極的に第５学年までに学習した漢字を確かめ，今までの学習を生かして，漢字を適切に使った文や文章を作ろうとしている。
○漢字学習で困っていることや，漢字習得のための工夫を聞き合い，教科書を読んで漢字学習の秘伝を確認する。 ○漢字の書き方や読み方に関する教科書の問題に取り組み，漢字学習の秘伝を振り返る。 ○５年生で習った漢字を使い，テレビ局での様子や人々の会話を想像した説明文を書く。	
【備考】 ○テレビ局の様子や人々の会話を想像した説明文を書く際，既習漢字を平仮名表記にした学習プリントを活用するとよい。	

〈言葉の学習〉(『冬のおとずれ』)	１２月（２時間…Ｂ２）
目標	冬を感じたことについて，文章に書くことができる。
評価 規準	(①知　・　技)語句と語句との関係について理解し，語彙を豊かにするとともに，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使っている。((1)オ) (②思・判・表)「書くこと」において，目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) (③主体的態度)積極的に季節を表す語彙を豊かにし，表現の意図に応じて言葉を吟味しながら，手紙を書こうとしている。
○冬を表す言葉とその意味を知り，自分が冬を感じる場面や風物を想起する。 ○冬を感じる場面や風物を取り上げながら，冬の便りとして，友達やお世話になった人，親戚などに宛てた手紙を書く。	
【備考】 ○郵便局からいただく年賀はがきを活用するとよい。	

〈言葉の学習〉(『漢字の広場⑤』)	１月（１時間…Ｂ１）
目標	学習した漢字を使い，絵を見て想像したことを基に，文章を書くことができる。
評価 規準	(①知　・　技)第５学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表)「書くこと」において，書き表し方に着目して，文を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度)積極的に第５学年までに学習した漢字を確かめ，今までの学習を生かして，漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
○５年生で習った漢字を使い，商店街の様子を一文で書く。	

国語科　６年

単元	19　表現を工夫して書こう（『思い出を言葉に』『人を引きつける表現』）			１月（１０時間…Ｂ９・知・技１）
目標	事実と意見との関係を明確にさせたり，効果的な表現を工夫したりして，主張の明確な文章を書くことができる。			
言語活動	事実や経験を基に，感じたり考えたりしたことについて書く活動。（ウ）			
評価規準	(①知　・　技)倒置法や反復法，比喩等の表現技法が文章を書く際に活用できることに気付き，自分の文章の中で用いている。((1)ク) (②思・判・表)「書くこと」において，題材について主張が明確になるように，事実と意見とを関わらせた展開の仕方や表現の工夫を用いて，文章を書いている。(B(1)ウ) (③主体的態度)積極的に日常生活の中で感じたことや考えたことの中から題材を見付け，主張の明確な文章を書くことに関わる課題の解決に向けて，言語活動に取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○「つき」「やまなし」「鯉のぼり」を読み，表現技法のよさを話し合う。	○倒置法や反復法，比喩等の表現技法のよさに気付くことができるよう，試しの例文を作って発表し合う機会を設定する。	◇倒置法や反復法，比喩等を用いた例文を作っている。　＜学習プリント③＞
	1	○学習課題をつかみ，学習計画を立て，作文に書く題材を考える。 学習計画例：①取材をする。②構成メモを作る。 ③構成メモを基に，下書きをする。 ④推敲する。⑤清書をする。 学習課題例 表現を工夫して，思い出を言葉で残そう	○６年間の小学校生活を基に，感じたり考えたりしたことを主張できるよう，題材例を複数提示する。	◇自分が書こうとする主張に関わる題材をプリントに記述している。 ＜学習プリント③＞
ふかめる	1	○主張に合った材料を集める。	○主張に合った事実や意見を集めることができるよう，想起したことをイメージマップで関連付けてまとめる学習プリント（ロイロノート上のカードでもよい）を用意する。	◇主張に関わる事実や意見をプリントに記述している。　＜学習プリント②＞
	1	○構成メモを作成する。	○事実と意見とを効果的に関わらせて構成を考えることができるよう，「はじめ－中－終わり」の「中」の段落に，主張の根拠となる出来事とそれに伴った自分の変化を複数記述できる構成メモを用意する。	◇「中」の段落に，自分の主張がわかるように事実と意見を配置している。 ＜構成メモ②＞
	1	○自分の作文に取り入れる表現技法を決め，表現の工夫を考える。	○自分の作文で使えそうな表現技法を考える手がかりを得ることができるよう，「倒置法」「反復法」「比喩」「擬態語」「七五調」という表現技法の名称と使用例を提示する。	◇「倒置法」「反復法」「比喩」等の表現の工夫を取り入れた文を書いている。 ＜学習プリント①＞
	2	○構成メモを基に，作文を書く。	○構成を修正しながら展開の仕方を工夫できるよう，Wordソフトと一人一台のキーボード，iPadを用意する。	◇主張を明確にした作文を書いている。 ＜作文①②③＞
	2	○下書きを音読して見直し，清書をする。	○自分の作文を読み返す際の手がかりを得ることができるよう，作文を書いたり推敲したりする際の観点「主張の明確さ」「読み手に伝わる表現」を再提示する。	**◇主張に沿って，読み手に伝わる表現を用いながら，自分の変化や成長を作文にまとめている。　＜作文①②③＞**
かふえりる	1	○互いの作文を読み合い，学習を振り返る。	○用いられている表現の工夫に着目しながら，互いの作文を評価できるよう，「表現の工夫のよさ」の視点を提示する。	◇用いられている表現の工夫やそのよさに触れて発言したり，記述したりしている。 ＜発言・振り返りシート③＞
【備考】				

国語科　６年
〇文量については原稿用紙３枚～３枚半（1200～1400字）程度とする。
〇作文で扱いやすい表現技法は「擬態語」や「比喩」だが，表現技法の種類として，「倒置法」「反復法」「七五調」にも触れたり，用語を習得できるように指導する。

国語科　６年

単元	20　資料を使って，効果的なスピーチをしよう（『今，私は，ぼくは』）			１月（６時間…Ａ６）
目標	小学校生活の思い出やそこから考えたことをスピーチ発表することができる。			
言語活動	自分の考えを伝えるために必要な情報を集め，考えたことをスピーチ発表する活動。（イ）			
評価規準	(①知　・　技)スピーチメモで使う言葉において，語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話の構成や展開について理解している。((1)カ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において，小学校生活の中から伝えたいことを決め，スピーチ発表する際の話の構成を考えている。(A(1)イ) 「話すこと・聞くこと」において，適切な資料を示しながらスピーチしている。(A(1)ウ) (③主体的態度)積極的に資料を活用し，効果的なスピーチをすることに関わる課題の解決に向けて，小学校生活を振り返ってもった思いを伝えたり聞いたりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	１	○５年生で学習したことを振り返ったり，スピーチモデルを見たりして，学習課題をつかむ。 学習課題例 なりたい自分をスピーチで伝え合おう	○思いの中心を書き表した適切な資料（フリップ）を用いて，スピーチするイメージをもてるよう，教師のスピーチモデルを提示する。	**◇将来の夢と，そう思うようになった出来事や，そのときに感じたことを記述したり発言したりしている。 ＜ノート・発言③＞**
ふかめる	１	○スピーチで伝えたい思いをまとめる。	○伝えたい思いの中心を決められるよう，付箋を用いて思い出や伝えたい思いを整理する活動を設定する。	◇小学校生活の思い出を基に，スピーチで伝えたい思いを決めている。＜ノート②＞
	２	○スピーチメモと提示する資料を作成する。	○話の構成を考えてスピーチできるよう，伝えたい内容を整理して箇条書きで記しておくスピーチメモを用意する。	**◇スピーチの内容を「初め－中－終わり」の構成でまとめている。＜スピーチメモ①＞**
かふえりる	２	○スピーチ発表会を行う。	○スピーチで伝えたい思いの中心に気を付けながら，話したり聞いたりできるよう，相互評価シートを用意する。	**◇自分の伝えたい思いの中心が伝わる資料の示し方でスピーチをしたり，資料の示し方に気を付けてスピーチを聞いたりしている。＜スピーチ②＞**
【備考】 ○提示資料はP215を参照する。 ○相互評価シートの例はカリ管にある。 ○英語科「小学校の思い出を英語で話そう」との関連を図るとよい。				

単元	21　詩の楽しみ方を見付けよう（『詩を朗読してしょうかいしよう』）	１月（２時間…Ｃ２）
目標	これまでに身に付けてきた音読の技能を生かしたり，詩の全体像を想像したりしながら，積極的に音読することができる。	
言語活動	詩『ぽくぽく』『動物たちの恐ろしい夢のなかに』『うぐいす』を音読し，想像した情景を伝え合う活動。（イ）	
評価規準	(①知　・　技)これまでに身に付けてきた音読の技能を生かして，詩を音読している。((1)ケ) (②思・判・表)「読むこと」において，詩の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) (③主体的態度)積極的に詩の全体像を具体的に想像し，詩の楽しみ方に関わる課題の解決に向けて，友達と楽しんで音読しようとしている。	
○表現技法の面白さを見付けながら，『ぽくぽく』『動物たちの恐ろしい夢のなかに』『うぐいす』を繰り返し音読する。 ○想像した情景を基に，自分のお気に入りの詩を音読する。		

国語科　６年

単元	22　社会とつながろう（『メディアと人間社会』『大切な人と深くつながるために』）			２月（６時間…Ｃ６）
目標	複数の文章を読んで理解したことに基づいて，自分と社会とのつながりについて考えたことをまとめることができる。			
言語活動	説明や解説等の文章を比較しながら読み，分かったことや考えたことを聞き合う活動。（ア）			
評価規準	(①知　・　技)接続語や指示語に着目しながら，「序論－本論－結論」という文章構成を理解している。((1)カ) (②思・判・表)「読むこと」において，文章構成や表現の工夫を捉えながら読んで理解した内容と自分の考えを結び付けて，自分と社会とのつながり方をまとめている。(C(1)オ) (③主体的態度)積極的に複数の文章を読み，考えをまとめることに関わる課題の解決に向けて，自分と社会とのつながりについて考えたことを友達と聞き合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『メディアと人間社会』『大切な人と深くつながるために』を読み，文章から受け取れるメッセージを聞き合い，学習課題をつかむ。 学習課題例 筆者の思いや説明の工夫を読み取り，自分と社会とのつながり方を考えよう	○メッセージ性の強い文章の特徴に気付くことが出来るよう，それぞれの文章の筆者が想定する読み手と筆者の思いを書き込める枠が設けられた本文シートを用意する。	◇文章から受け取れる筆者の思いを発言したり，記述したりしている。　＜発言・本文シート③＞
ふかめる	1	○『メディアと人間社会』『大切な人と深くつながるために』の文章の要旨をそれぞれ捉える。	○教材文を「序論－本論－結論」の文章構成で捉えることができるよう，学習用語「始め」「中」「終わり」と並べて，学習用語「序論」「本論」「結論」を提示する。	◇二つの文章が「結論」から読み取れる筆者の思いをそれぞれまとめ，発言したり，記述したりしている。 ＜発言・ノート①＞
	2	○『メディアと人間社会』『大切な人と深くつながるために』を比較しながら読み，自分と社会とのつながりについて考えたことを聞き合う。	○友達の考えた社会とのつながり方を自分の考えの参考として聞くことができるよう，本文シートを共有するペア同士が向かい合った座席配置をする。	**◇文章を読んで分かったことと自分の考えを結び付けながら，自分と社会とのつながり方を発言したり，記述したりしている。　＜発言・本文シート①②③＞**
ふりかえる	1	○自分と社会とのつながりについて考えたことを書きまとめ，単元の学習を振り返る。	○筆者の用いた事実と意見に関わって，自分の考えを記述することができるよう，本文の引用の仕方を例示する。	◇自分と社会とのつながり方についての考えを，筆者の用いた事実や意見と関わらせて記述している。 ＜ノート②＞
	1	○まとめテストを行う。		**◇６割以上の問題について，正答を出している。 ＜テスト②＞**

【備考】
○国語の学習用語「序論」「本論」「結論」を理解し，用いることができるようにする。
○「ふかめる」過程において，『プログラミングで未来を創る』を紹介する。また，自分の考えの参考になるよう，宿題として音読しておくとよい。

国語科　６年

〈言葉の学習〉『漢字を正しく使えるように』	２月（３時間…知・技３）
目標	学習した漢字を使い，絵を見て想像したことを基に，文章を書くことができる。
評価 規準	(①知　・　技)第５学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第６学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使っている。((1)エ) (③主体的態度)第６学年に配当されている漢字の学習に粘り強く取り組み，今までの学習を生かして，同じ読み方をする漢字を正しく使おうとしている。
○音や訓に気を付けて，正しい漢字を用いながら書く。 ○「覚えておきたい言葉」について，読み方や意味を確かめる。	
○３学期の言語事項について，まとめのテストをする。	

〈言葉の学習〉(『漢字の広場⑥』)	２月（１時間…Ｂ１）
目標	学習した漢字を使い，絵を見て想像したことを基に，文章を書くことができる。
評価 規準	(①知　・　技)第５学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表)「書くこと」において，書き表し方に着目して，文章を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度)積極的に第５学年までに学習した漢字を確かめ，今までの学習を生かして，漢字を適切に使った文章を作ろうとしている。
○５年生で習った漢字を使い，小学校の思い出を文章に書く。	

国語科　６年

単元	23　『海の命』の世界を読み味わおう（『海の命』）			３月（６時間…Ｃ６）
目標	文章を読んで考えたことを基に，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。			
言語活動	物語『海の命』を読み，想像したことを聞き合う活動。(イ)			
評価規準	(①知　・　技)６つの場面からなる物語の構成を捉えて読んでいる。((1)オ) (②思・判・表)「読むこと」において，文章から捉えた登場人物の生き方について友達と考えを聞き合い，自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)カ) (③主体的態度)積極的に登場人物の生き方に興味をもち，読んで考えたことを交流することに関わる課題の解決に向けて，友達と想像を広げて読もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『海の命』を読み，学習課題をつかむ。 学習課題例 登場人物同士の関係に気を付けて読み，物語の世界を具体的に想像しよう	○物語に登場する人物同士の関係に問題意識をもつことができるよう，各場面の叙述を基に，登場人物同士の関係を図で整理する機会を設定する。	◇登場人物同士の関係に関わって，考えたことや疑問に思ったことを記述したり発言したりしている。 ＜ノート・発言③＞
ふかめる	3	○初発の感想を基に,物語の世界を具体的に想像する。 考えられる問いの例 ・太一はなぜクエを殺さなかったのか。 ・太一の夢とは何か。 ・村一番の漁師と一人前の漁師は何が違うのか。 ・海の命とは何か。	○自らの問いの解決に向け，個々にめあてを立てることができるよう，毎時間の初めに前時までの振り返りを読む機会を設定する。 ○登場人物同士の関係に着目しながら読み進めることができるよう，人物関係図のワークシートを用意し，グループの中央に設置する。	**◇叙述を基に具体的に想像したことを根拠に，自分や友達の問いに対する考えを発言したり記述したりしている。** **＜ノート・発言②＞** **◇登場人物同士の関係を関わらせながら，自分や友達の問いに対する考えを発言したり記述したりしている。** **＜ノート・発言①＞**
ふりかえる	1	○『海の命』について考えたことを文章にまとめる。	○登場人物同士の関係と，読んで想像したことを基に考えることができるよう，個々に人物関係図をまとめる時間を設定する。	**◇『海の命』について，登場人物同士の関係や読んで想像したことを根拠に，自分の考えを記述したり発言したりしている。** **＜ノート・発言③＞**
	1	○まとめテストを行う。		**◇６割以上の問題について，正答を出している。** **＜テスト②＞**

国語科　６年

単元	24　言葉を受け取り，言葉で伝える（『生きる』『今，あなたに考えてほしいこと』）			３月（４時間…Ｃ４）
目標	『生きる』を読み味わったり，『今，あなたに考えてほしいこと』のメッセージを読み取ったりして，自分のこれまでの「生きる」ことやこれからの「生きる」ことについて，考えたことを文章にまとめることができる。			
言語活動	詩や説明の文章等を読み，自分の生き方について考えたことを文章にまとめる活動。（イ）			
評価規準	(①知　・　技)自分のこれまでの生き方やこれからの生き方について考えたことを表す語彙を広げ，文章の中で用いている。((1)オ) (②思・判・表)「読むこと」において，叙述を基に，文章中の言葉を根拠にしながら，生き方について自分なりの文章にまとめている。((1)オ) (③主体的態度)積極的に既習事項を生かして文章を読み，学習課題の解決に向けて，自分の生きることに関して粘り強く考えたことを表現しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○これまでの国語で身に付けた「読むこと」に関する学び方を話し合ったり，『生きる』『今，あなたに考えてほしいこと』を読んだりして，学習課題を立てる。 学習課題例 ６年間の学習を生かして文章を読み，考えたことをまとめて未来に届けよう	○「読むこと」における学び方に焦点化して想起できるよう，既習の文学教材を例示しながら，話合いの観点「物語の内容を捉えるため」「読み味わうため」「読んだことを生かすため」「教室での学び方」を提示する。	◇これまでの国語で身に付けた「読むこと」に関する学び方や二つの文章を読んだ感想を発言したり，記述したりしている。 ＜発言・ノート③＞
ふかめる	1	○『生きる』を音読したり，読んで考えたことを聞き合ったりする。	○自分のこれまでの経験や友達の経験等を関わらせながら作者の思いや言葉の意味を考えることができるよう，隣り合う友達とペアで用いることができる本文シートを用意する。	**◇『生きる』で使われている言葉に印を付けながら，自分のこれまでの生き方やこれからの生き方に関して考えたことを発言したり，本文シートに書き込んだりしている。 ＜発言・本文シート①②③＞**
	1	○『今，あなたに考えてほしいこと』を読み，読み取ったメッセージを聞き合う。	○友達の読み取ったメッセージを自分の考えの参考として聞くことができるよう，本文シートを共有するペア同士が向かい合った座席配置をする。	**◇『今，あなたに考えてほしいこと』に書き表されている作者の思いに印を付けながら，自分のこれまでの生き方やこれからの生き方に関して考えたことを発言したり，本文シートに書き込んだりしている。 ＜発言・本文シート①②③＞**
ふりかえる	1	○『生きる』や『今，あなたに考えてほしいこと』の叙述を根拠に,自分の生き方について文章にまとめ,６年間の学習を振り返る。	○自分の生きることに関して考えたことをひとまとまりの文章にして書き残すことができるよう，書いた文章を入れたタイムカプセルを開封する時期を「６年後（成人したら）」または「○年後（子どもたちと決める）」のいずれかを提示する。	◇二つの文章を基に，自分の生き方について考えたことを文章にしている。 ＜タイムカプセルに入れる用紙③＞

【備考】
○『生きる』『今，あなたに考えてほしいこと』は，事前に音読の宿題に出しておくとよい。
○タイムカプセルを作成するかどうかは，担任裁量でよい。